

質問案 19/1/24

・今後のスケジュールについてお尋ねします。

名古屋市は、2018年10月の文化審議会での了承を断念しました。工期の見直し協議を名古屋市と竹中工務店で行っているのかを質問いたします。

断念前の18/9/21、名古屋市議会本会議で広沢副市長は「現時点において竹中工務店と具体的な協議は行っておりません」としました。

しかしながら、断念以降、全体のスケジュールはいまだに公表されていません。断念後の2018年10月30日、名古屋市議会経済水道委員会で西野所長は「2019年5月に文化審議会の了承を得たとしても、10か月程度工事が遅れる」と述べています。また、市は「竹中さんは現状変更許可の見通しが立たない今の現状におきましては具体的なスケジュールを検討するのはなかなか難しい」とさえ述べています。

それどころか、18/12/28の西野所長の記者会見では「2022年に完成する見通しは立っていないが、目指してやっている。」とまで述べました。

当初の案では2018年9月に仮設素屋根見学施設の予算要求、2018年11月に現天守解体予算要求がなされる予定でしたが、いまだに予算要求されていません。2019年度当初予算にも要求されていません。穴蔵石垣調査についても、予算どころかなにをどう調査するのかもはっきりしていません。

名古屋市は先ほども「建築基準法の適用除外を受ける予定」と繰り返し述べており、今後1/29に建築審査会が行われる予定ですが、いまだに議題に名古屋城が上がってきません。

竹中工務店に質問します。いつ建築基準法の適用除外を受ける予定と理解していますか。また、現時点において、名古屋市と竹中工務店は、基本協定13条などに基づき完成時期について協議しましたか、その結果はどうか。

<http://www.nagoya.ombudsman.jp/castle/170509-1.pdf>

続いて名古屋市に対し、いつに建築審査会にかけるつもりなのか、現時点で2022年に完成する見通しは立っているのか、西野所長にお聞かせいただきたい。さらに、各種予算要求の状況、また基本協定に基づき竹中工務店と完成時期について協議したのか、その結果はどうなのか。

今回の市民説明会の最大の論点である「スケジュール見直し」について、竹中・名古屋市から発言もなければ、会場からだれからも質問が出ませんでした。資料も公開せず、論点を明確にしない説明会を何回やっても無駄です。有意義なご回答を期待しています。

・入場者数予測と滞在時間についてお尋ねします。

19/1/22 説明会で、竹中工務店は「避難安全性を考えると、最上階に上がれる人数はおおむね 100 名を検討している」と述べました。

しかし、2018 年 7 月 19 日に開催された天守閣部会配付資料では、1 時間 2500 人来城者の計算で在館者密度を均一にすると、最上階には 136 人と試算されています。

<http://www.nagoya.ombudsman.jp/castle/180806-1.pdf>

竹中工務店が試算するように、最上階に 100 人しか登れなければ、想定していた 136 人から約 26.5%減となります。そうであれば、1 時間 1838 人、1 日 14700 人しか最上階に登れない、という計算になるのではないのでしょうか。

仮に 4 階で大量の人が滞留すれば、非常時にはより危険になります。もしくは最上階に登れないとして、4 階まで登っても、5 階に登らず降りることにもなりかねません。

危険さを減らそうとすると人数制限が必要となり、入場料収入のみでまかなうという収支計画が狂います。

竹中工務店に質問します。最上階に 100 名の試算の場合、1 時間当たり、1 日当たり城全体で最大何人の来城者数を見込んでいますか。1 人最上階に何分滞在できる計算ですか。4 階に滞留することは計算に入れてありますか。最上階に登れない人を試算に入れてありますか。

次に、名古屋市に対し、最上階に 100 名試算の場合の収支計画は試算していますか。入場者数が約 26.5%も減少した場合、入場料収入だけでは到底まかなえないと考えますが、いかがでしょうか。全員が最上階に登るという試算を今後も続けますか。

なお、名古屋市は「エレベーターに代わる新技術」なるものを募集するようですが、新技術を使うと、より入場者数が減るのではないかと危惧します。「安全」と「収支」と「バリアフリー」すべてを満足させる案はいまだに市民に提示できていません。それらを示した上で、再度の市民説明会の開催を望みます。